

2015.5.1発行

広報イキシア 68号

新年度
2015



<大網拠点>



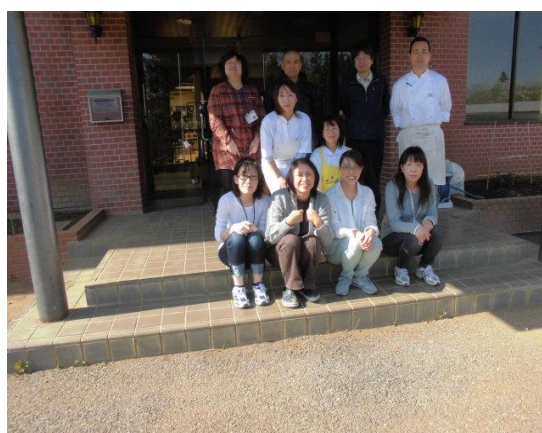
<茂原拠点>



<柏拠点>



<だいち>



<千葉拠点>

『閉鎖～新しい一歩』

2015年度がスタートしました。ワーナーホームでは千葉市のワークショップ鎌取の作業として「ペジブル鎌取店」を開店します。パン工房としては、柏、茂原に次いで3店目となります。また、併設してグループホーム「フジュール」を立ち上げます。

一方で、障害者就業・生活支援センター夷隅ブリオ（いすみ市）が3月末をもって閉鎖しました。夷隅ブリオは、4年間の活動で障害者の就職支援162件、職場実習96件の実績をあげましたが、特に後半の2年間は毎年50人以上を就職させました。都市部のセンターに勝るとも劣らない活動は、職員たちの努力の結果です。ここにその活動を讃え記録に残します。

夷隅ブリオの経過

2005（平成17）年12月に県庁商工労働部は、民間事業者に対する障害者就業・生活支援センターの事業説明会を行いました。千葉県は平成20年度までに4カ所のセンターを設置したいとのことでした。ワーナーホームとしては、パンプキンハウスで相談支援の一環として行っている就労支援を発展的に行えるのではないかと考えて積極的に検討することとしました。

しかし、2006年度、2007年度と事業申請をしましたが、千葉県の審査を通りませんでした。そして2008年度は長生地域生活支援センター（茂原市）の開設を優先することとして、就業・生活支援センターの申請は「見送り」の方針を決めていました。そこに県庁産業人材課から突然「精神障害者への支援が手薄なので、2009（平成21）年度にはワーナーホームに（センターを）運営して欲しい」との話がありました。

2009年1月、3回目の申請書を提出し、千葉県から国への推薦を得て4月1日から「障害者就業・生活支援センターブリオ」が事業を開始しました。初代所長に船田伸二が就任しました。事務所はパンプキンハウスにおきましたが、長生や夷隅地域まで巡回してカバーしました。

2011（平成23）年1月、2年の活動実績を背景に長生、夷隅両圏域についても申請して、4月に長生ブリオ、夷隅ブリオが誕生し3圏域でブリオの活動が始まりました。千葉県としては全ての障害保健福祉圏域16カ所で同センターの実施体制ができあがったこととなります。

しかし、3センターの実施は、雇用支援で7年以上の福祉経験者の配置を要求されることや支出費目が極めて限定されるなど運営面では不自由な状況が続いていました。

2012（平成24）年になると、県への報告や業務の遅れ、混乱が顕著となってきました。さらに職員の体調不良による退職などが相次いだため寺田が夷隅ブリオのセンター長を兼ねて急場をしのぐこととしました。障害者の相談支援事業所では計画相談や地域相談にベテラン職員を配置しなければならないなどの事情も、人材のやり繰りをさらにひっ迫させました。利用者の自殺や自立支援協議会活動との混乱などもこの時期に起こっています。

2013（平成25）年になると職員配置がいよいよ困難となり、長生ブリオを閉鎖することとしました。県には「職員配置が一時的に困難になった」として、一時的な閉鎖であることを伝えました。同圏域の利用者や関係機関のフォローは夷隅、山武ブリオで行う体制をとり、1年3ヵ月の休止期間を経て2014（平成26）年7月に再開しました。この間山武ブリオには長生圏域を応援するための職員が加配置されましたが、7月以降もそのままの配置が継続しました。

そして、施設長会議での議論を経て昨年10月の理事会で「夷隅ブリオ」の閉鎖が正式に承認されるに至りました。

議案説明は、次の通りです。

「障害者就業・生活支援センターの職員については、要件として①主任就業支援担当は障害者支援の経験が7年以上必要で、他事業との兼務が認められない。現在3カ所で同センター事業を受託しているが、職員の補充が間に合わない。また、センターにベテラン職員を配置すると、他相談支援事業所の人手が不足する。さらに来年度から施行される「生活困窮者自立支援法」（健康福祉指導課所管）の自立相談支援事業の受託要請もあり、4月の採用予定でも人手不足が解消しない。よって障害者就業・生活支援センター夷隅ブリオを2014年度で終了することの承認をお願いしたい。なお、終了するにあたっては、登録者（利用者）のアフターケア等について、引継ぐ法人と密接に連携しながら移管したい」

夷隅ブリオは、本部からも遠く他事業所職員との交流も乏しい上に、職員は1年もたたずに入れ替わるなかでよく奮闘しました。地域自立支援協議会の就労部会事務局を引き受け沈滞している地域に変化を起こしつつあります。また、就職や実習の斡旋でも山武はおろか都市部のセンターにまったく遜色ない活動実績を挙げたことは前述のとおりでここに特筆しておきます。

以上が夷隅ブリオの四年にわたる活動の記録です。職員たちは、厳しい状況の下でそれぞれの役割を果たしました。制約の中ではあっても、利用者や関係機関が混乱することのない幕引きとしたいものです。夷隅ブリオの閉鎖を千葉拠点や生活困窮者支援の新しい事業を生み出す一歩にしたいと思います。

千葉拠点新事業スタート

昨年4月、千葉市内で、「鎌取相談支援センター」（特定相談・一般相談事業所）と「ワークショップ鎌取」（就労移行・就労継続B型事業所）が運営を開始しました。そして今年4月から新たに千葉拠点で、グループホーム「フジュール」とパン工房「ペジューブル鎌取店」が始まりました。

「フジュール」は、下総精神医療センターの隣地ということもあり、退院と同時に入居となる方が殆どです。退院に向けて、入院中から計画相談や地域相談（移行）を利用し、見学やパン工房の体験を重ねてきました。「フジュール」は、定員16名ですがすでに10名が入居しています。以前、看護学生が宿舎として使用していた場所をグループホームにしましたが、看護学生が4人で暮らしていた部屋が、なんと1人部屋となっています。広々スペースをそれぞれが好きな家具や物品を運び入れ、自分好みの部屋にいただいています。

入居者には「フジュール」で暮らしながらさまざまな体験を重ね、地域生活に自信をつけ、3年の内に更に病院と離れた地域に移っていただきたいと考えています。

「ペジューブル鎌取店」は柏店、茂原店に次いでの出店です。ペジューブルの味を継承しつつ、健



康的・芳醇なパンを作っています。職員・利用者さんたちは体重増加を心配しながらもおいしいパンのとりことなっています。売り場は、「アンティーク」をコンセプトにしています。腕自慢かつ優しいパン職人、きびきび動く笑顔の素敵な支援員、パン職人や販売員を目指し一生懸命練習している利用者たちが愛情のこもったパンを製造し、心のこもった販売をしています。千葉拠点職員、利用者がおいしいパンを焼きながらみなさまのお越しをお待ちしております。是非、ご来店してください。

・・・思い起こせばここまで辿り着くにはいろいろなことがありました。すでにワークショップ鎌取では環境整備作業や印刷作業を行っていましたし、計画相談は毎日新規の電話がかかってくる状況。そんな日常業務を行いながらのグループホームとパン工房の準備でした。改修工事、そして利用者もフジールだけで16名一気に増加するわけですから、3月には、事業所内を職員たちは走り回っていました。意見が違いぶつかりあったり、忙しさのあまり感情的になったり…。そんなことを職員たちは乗り越えて、理解しあい、助け合いながら開所することができました。

当法人と下総精神医療センター職員の方たちとの合同の開所検討会は昨年4月から始め、10回を超えました。事務、看護師、精神保健福祉士、設計士など他職種が意見を交換し試行錯誤しながら「フジール」と「ページブル鎌取店」はできあがりしました。そして最後に「フジール」は、当法人理事長を含め職員たちがペンキ塗りをしました。一つ一つみんなで考え、いろいろな人の協力をいただきながら完成にこぎつけたと言えます。

去る4月15日には竣工披露を行い、日ごろよりご協力いただいているみなさまに新たな事業所を見ていただきました。お忙しい中、ご来臨いただいたみなさま、ありがとうございます。

また、改修工事は、ガス工事や雨水処理、電気工事など根本的な工事が必要となり、予定以上に費用がかかりました。イキシア会のみなさまには、ご寄付をいただき感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。



みんなで作り上げたこの場所を有効活用し、1人でも多くの精神障害をお持ちの方が退院し、その人らしく地域生活を継続していかれるようこれからも一人ひとりに寄り添っていきたく思います。千葉拠点はやっと出発点に立った所です。職員、利用者共邁進していきますので、頑張っている姿を見に来てください。(三好)

2015 事業計画

<大網拠点>

大網拠点は、住まい、日中活動、就労支援、訪問系サービス、相談支援等と複合的な機能を持ち、様々なニーズに対応しています。また、本部拠点を置くワーナーホームの根幹であります。

その中でも、ホレブ寮は、ワーナーホームの最初の施設として、その理念や支援スタイルを継承する重要な役割を有しており、職員の基礎訓練の場としての機能を担っています。また、ワーナーホームとして、地域からの期待を背負い、日々活動しているところです。このような大網拠点としての役割をしっかりと受け止め、今年度も邁進してまいります。

今年度の目標として、①職員間とのコミュニケーション、利用者支援の姿勢などを日常業務の中で獲得していけるようOJTを通して高めていくこと（人材育成）、②計画のある運営をあげました。コミュニケーションの向上として、申し送りの重視、情報伝達の正確性と簡潔化を図ります。事業所内、法人内はもとより、関係機関との連携による利用者を支えるネットワークを構築していくためには、コミュニケーション力は不可欠です。まずは、職場内でのコミュニケーション力を高めることで、OJTの効果が期待できるのだと思っています。

昨年度、グループホーム・ケアホームが一元化され、グループホーム（介護サービス包括型）としての運営になりました。グループホーム（共同生活援助）の利用希望者は、多く、昨年度、グループホームの定員増と関連して、新ホレブ寮の定員変更を目指しましたが、県の条件を満たせず、実現しませんでした。今年度は、改修等も視野に入れて、定員増の検討をしていきます。そして、利用者のライフステージにあった居住の場を提供できるよう努めます。

日中活動、通所系サービスの事業所では、利用者の利用目的をしっかりと把握し、それぞれの特徴を活かしつつ、利用者の個々のニーズに合わせてサービスの提供をいたします。通所率を高め、安定した運営を目指すためには、利用者へのきめ細やかな支援、対応が求められています。

個々の事業所での目的、役割は、それぞれですが、質の高いサービスの提供を目指し、事業所ごとに研修等も計画的に実施していく予定です。



相談支援事業所（パンプキンハウス）は、サービス等利用計画書作成の完全実施に伴い、職員体制の強化をはかります。障害者就業・生活支援センター（山武ブリオ）では、平成30年の精神障害者の雇用義務化に伴い、精神障害者の支援におけるワーナーホームの役割を果たしていきます。

今年度も大網拠点職員一同、力を合わせ活動していきます。（高木）

大網拠点実施事業

ケア付き共同住居（法外施設）、共同生活援助、短期入所（単独型）、生活介護、自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援B型、居宅介護、指定特定・一般・児童相談、障害者就業・生活支援センター

< 柏拠点 >



必要な人に必要な支援が届くよう、各事業に取り組んでまいります。

【たんぼぼセンター】

障がいをもちながら地域で暮らす方々が安心して過ごせる場、ありのままの自分に自信を持って、更に地域に出てみたいという意欲を持てるような地域活動支援を目指します。

指定相談支援事業においては150件のサービス等利用計画作成を目指しながら、柏市委託の相談支援事業所として、サービスだけで解決

できない課題や柏市全体の相談支援の質の向上、相談支援体制の構築に取り組めます。

【わたげワークス】

「働きたい」という想いのある障害者に対して、天然酵母パン PAISIBLE・Boulangerie Cafe PAISIBLE の運営に関わる作業・訓練の提供を行います。それぞれの障がいや力に合わせた「働くこと」を実際に体験し、障害や病気があってもその人らしい働き方を見つけられるよう支援します。

少しでも多くの方がPAISIBLEを訪れ、パンを味わい、喜んでいただくことが地域の障害への理解、啓発へとつながっていくと信じこのことに取り組んでいきたいと思えます。

【エクラス】

いろいろなハンデを持つ仲間と、支援者の見守りによって、家族や病院を離れ、自立した生活を送ることができるよう支援します。24時間の職員配置、訪問看護ステーションの併設、利便性、エレベーター設置などの環境は、精神障害者の多様な地域生活への支援の形として医療機関からの期待も大きく、柏地域における精神障害者の地域移行のモデル的役割を果たせるよう、個別の支援を中心に実績を構築してまいります。

【すくすく】

医療的なケアを必要とする重度心身障害児の放課後の居場所を提供します。

加えて、事業所の空き時間を利用しての多様なニーズに臨機応変に対応できる場について引き続き検討し、健常児の無認可保育（届出の必要のない定員5名以下）と日中一時支援事業という形での事業化を目指します。柏市、関係機関と連携し、どんな子も当たり前地域で暮らすことのできる基盤作りに取り組んでいきたいと思えます。

【みつばち訪問看護】

受入れができる訪問看護事業者が少ない精神障害者、重度心身障害児・者とそのご家族が安心して地域で生活していくことができるよう支援します。

地域で暮らす患者さんの実態や社会資源を十分に理解したうえで訪問看護を行うことにより、患者の病状に合わせた効果的な治療と、円滑な連携を促す役割を果たしていきたいと思えます。この目的を実現する為に、看護師の育成と運営の安定に重点的に取り組めます。（大久保）

柏拠点実施事業

指定特定・一般・児童相談、地域活動支援センター、就労移行支援、就労継続支援B型、共同生活援助、放課後等児童デイサービス、訪問看護

<千葉拠点>

千葉拠点は、共同生活援助事業「フジュール」と相談事業「鎌取相談支援センター」、就労継続B型・就労移行业「ワークショップ鎌取」です。

今年度から始まった「フジュール」は入居者に自由と責任を感じていただくことが目標です。そのために自己決定とやり遂げる力を身に着けていただけるような関わりをしていきたいと思っています。

「鎌取相談支援センター」は、サービス等利用計画書作成完全実施に貢献すること、地域移行を進めること、地域ネットワークを構築することを目標としています。

「ワークショップ鎌取」は働けることの充実感、幸せを感じていただくこと、働くことで経験を積み、個々が磨かれることを目標とします。

3事業所とも温かい交わりの中で、みんなが輝くことが目標です。(三好)

千葉拠点実施事業

指定特定・一般相談支援、就労移行支援、就労継続B型、共同生活援助

<長生拠点>

長生圏域にある「長生地域生活支援センター」の利用者は、地域からワーカーホーム以外のサービスを使っている方がほとんどです。サービス等利用計画の作成や訪問の業務は移動や手間もかかり、相談員1名あたり100件のケースを抱えて奔走していますが、地域の求めに応じて踏ん張りたいと思います。

昨年7月に再開した障害者就業・生活支援センター「長生ブリオ」も、地域の事業所や関係機関から徐々に当てにされるようになって来たかなと感じています。

「ワークショップ茂原」も1月で1周年を迎えました。家庭訪問した先の利用者やご家族から「あのパン屋さんの法人の方ですよ」と言われる事もあり、皆さんに知られるようになって嬉しいです。今年も襟を正して取り組みたいと思います。(山岡)

長生拠点実施事業

障害者就業・生活支援センター、企業支援、指定特定・一般・児童相談、地域生活支援センター、就労意向支援、就労継続B型

<山武拠点>

山武拠点は、今まで県の委託事業である中核地域生活支援センター事業のさんぶエリアネットのみ運営してきました。今年度からは、2市と山武郡(3町)における生活困窮者自立相談支援事業である、くらしサポートの拠点としても運営していきます。

生活困窮者自立相談支援事業は、国が中核地域生活支援センター事業をモデルとした経緯もあり、包括的な支援や伴走型の支援、アウトリーチによる積極的な支援など、支援方法は実に類似しています。そのため両事業の役割や機能を整理すること、生活困窮者自立相談支援事業も含めた山武圏域における相談支援体制の整理・検証を行い、総合相談支援体制の構築について検討していきます。

また、さんぶエリアネットの24時間365日の支援体制と、くらしサポートの生活困窮者に特化した支援のお互いの特徴を活かすことで、障害の有無を問わず制度の狭間に落ちている人への支援を充実していきます。(吉井)

山武拠点実施事業

中核地域生活支援センター、生活困窮者自立相談支援(大網白里市・東金市・横芝光町・芝山町・九十九里町)

《お知らせ》

◎名称変更

4月1日より、ケアホーム第1はクロワール、ケアホーム第2はファミリーユと名称が変わります。クロワールとはフランス語で「信じる」、ファミリーユとはフランス語で「家族」という意味です。これからも利用者の皆さんの第2の家族として、信じ合い、支え合っていきたいと思います。

◎ノバハイツ白里定員変更

ノバハイツ白里(短期入所事業)もすっかり賑わい、満員の日も続いています。少しでも多くの方に利用してもらうため、4月1日より定員が2名から4名に変更となります。ノバハイツ白里でどうぞゆっくりとお過ごしください。ご利用お待ちしております。(三好美)

◎夷隅ブリオ閉所

障害者就業・生活支援センター「夷隅ブリオ」が昨年度の3月末で閉所となりました。平成23年4月にJR大原駅前にオープンして以来、いすみ市・勝浦市・御宿町・大多喜町において就労支援を展開、4年間で延べおよそ200件の就労実績を上げてきました。企業が少ない地域だったため、職員は当初、企業開拓に苦勞しました。障害者雇用にご協力下さった企業や関係機関の皆様の支えがなければ、これだけの実績を上げることはできなかったと思います。本当にありがとうございました。

現在、夷隅圏域では次なる法人が事業を受託、登録者を引継ぎ、4月より支援を開始しています。今後とも、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。(齋藤)

生活困窮者自立相談支援事業の開始(くらしサポート)

生活保護・社会保険に続くセーフティネットとして、生活困窮者自立支援法が平成27年4月1日に施行されました。この制度は、増え続ける生活保護受給者や複合的な課題を抱えている人への支援策として、生活困窮状態にある人を対象に、生活保護に至る前の段階で支援を行い、早

期介入することで生活状況の悪化を食い止め、生活再建することが目的です。生活困窮に至る背景としては、仕事がない、借金がある、病気で仕事ができない、家庭環境の悪化など様々ですが、生活課題を紐解きながら福祉サービスや年金制度、相談支援制度などの活用を考えていく活動が求められます。

ワーナーホームでは、本制度の必須事業である自立相談支援事業の委託を山武圏域内の2市(大網白里市・東金市)及び県[山武郡(九十九里町・横芝光町・芝山町)]から受け、「くらしサポート」の名称で事業を開始しました。様々な課題を抱えている生活困窮状態の方からの相談を受け支援することで、精神的な病気や障害に至る前の悩みや問題に対して介入でき、病気や障害の未然防止、自殺予防の役割が果たせると考えています。このような関わり方も障害者福祉の1つの形だと思えます。具体的な支援を想定すると、生活が苦しく経済的な支援を求めている人に対して、金銭的支援ではなく相談支援を行い、相談者にやる気を起こさせて就職まで結び付け、経済的な安定に導くこととなります。一筋縄ではいかず、時には本人の求めと逆の支援を行う可能性もあり、関わり方については利用者の考えを十分理解しながら進めていく必要があります。

事業開始初年度としては、まずこの制度の支援が必要な人に対して、制度活用情報を届けられるよう、周知活動に最も力を注いでいきます。一人一人の相談支援を丁寧に行いながら本制度の相談支援の仕組みを確立させていく1年とします。

地域住民の方々、関係機関等の協力をいただきながら活動していきたいと考えていますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。(吉井)

職員交換研修報告

「社会福祉法人ブローニュの森(栃木)」に2月に1泊で研修に行きました。海発さん、小池さんから聴かせていただいたお話は、今年の私の実践や職員研修に活かしたいです。

また、当事者活動ピアクラブの実践を見て、私の地元(長生)でも当事者が自主的な活動ができるような働きかけを工夫したいと思いました。

次々と栃木グルメを振る舞っていただき、満腹大満足だった事も忘れられません。(山岡)

私の研修の目的は、利用者への対応や職員の仕事の姿勢を中心に、どのように仕事に取り組んでいるのかを学ぼうと思いました。利用者の状態については、ワーナーホームと同じような悩みを抱えていましたが、職員が仕事を楽しみ、利用者だけでなく、職員同士も大切にしていることを実感しました。実習を受け、刺激となることに加えて、自分自身の振り返りができ、さらにこれを糧にしていきます。

(武藤)

ワーナーホーム研究発表

2月度の所内研修として「研究発表」を行いました。日頃の業務の成果を発表する場であり、また、職員同士の連携・専門性の向上が図れる良い機会になっています。

☆優秀賞☆

障害者就労支援の取り組みと課題 ～山武ブリオ・ワークショップしらさと～

就労支援における山武ブリオとワークショップしらさとの役割と課題を明らかにすることで、今後の支援の在り方を考える目的として「障害者就労支援の取り組みと課題」をテーマに研究発表を行いました。調べていく中でワークショップしらさとを利用していた方は職場定着率が良いとの結果となり、課題としては①定着できなかった人の支援②就職率を上げるための工夫が挙げられました。今後、課題を解決するために、①目標を明確にさせる支援②不調時の対処方法を身に付けてもらえる支援③就職希望者は、山武ブリオとワークショップしらさととの合同面接する④就職したい気持ちのモチベーションの向上や不安な気持ちを軽減できる内容を盛り込んだ就労プログラムを実施し、充実した支援をしていきます。(野老)

☆貢献賞☆

不調時のサイン 「本人と職員の認識の違い」 ～だいち～

だいちの2015年研究発表は、新人職員だけの挑戦でした。自分自身の症状を言葉で伝えることが難しい精神障害者の方の支援をしている中で、私たち職員がいち早く皆さんの不調に気付かなければなりません、折角発信してくれたSOSに気付けなかったり実は不調ではなかった…なんてことがありました。そこで、この研究発表を良い機会に、利用者自身の不調時の振り返り、職員が感じている不調時のサインを募り、比較しました。結果として、利用者も職員も不調のサインには気付いていましたが、その後の関わりをもっと深く持つという事が課題にあがりました。皆さんのお家であるだいちでは、第二の家族であるという気持ちを持って関わって行きたいと思います。(一戸)

カトレア会2015活動

カトレア会の総会は、例年ワーナーホームの行事であるバーベキュー大会の日程に合わせて開催していましたが、今年度、バーベキュー大会が行われないことになりました。

そこで総会の日付や今年度の活動について計画するため、4月5日(日)に千葉市にて理事会が開催されました。

その中で「自分の家族が利用している事業所のことは知っているが、その他の福祉サービスを知らない」という意見が有り、今年度の活動として、勉強会を計画いたしました。

定例の総会を5月30日(土)にワーナーホームのパンプキンハウスで開催いたします。

内容は、12時より昼食会(当日は、ワーナーホームの就労系事業所によるペギーブルのパンを用意)、13時より総会、13時半より、第1回のカトレア会勉強会です。勉強会の内容は、①理事長よりワーナーホームの今までとこれからについての講演、②ワーナーホームの事業や、現在の利用者の様子を通して制度について学びます。

つきましては、みなさんが不安に思われていることやカトレア会で勉強していきたいこと、職

員に聞いてみたいこと等を、参加の有無に関わらず、カトレア会総会の出欠葉書にご記入いただければ幸いです。

交流会については、総会時に決定する予定ですのでぜひ総会にご参加いただき、ご意見をくださいますようお願いいたします。(武藤)

ワーナーホームの主な動き

◎1月

- ・就労者ミーティング「ストレスの解消法」～山武ブリオ～
- ・年始レク「書初め」～ケアホーム第1・2・シエスタ・ホレブ～
- ・初詣
- ・新年会
- ・防災訓練～ホレブデイサービスセンター～

◎2月

- ・豆まき、節分～ホレブデイサービスセンター～
- ・更生園社会リハビリテーションふれあいフェスタ出店～ワークショップしらさと～
- ・マザー牧場～長生地域生活支援センター～
- ・所内研修「研究発表」

◎3月

- ・交流会「スキンケア&メイク講座・今年度の振り返り」～山武ブリオ～
- ・ひな祭り～ホレブデイサービスセンター～
- ・花見
- ・イチゴ狩り～デイサービス自立訓練～
- ・第3回就労作業部会「特例子会社見学会」～長生ブリオ～
- ・就労者ミーティング～長生ブリオ～
- ・進級お祝い会～すくすく～
- ・所内研修「1年の振り返り」

◎4月

- ・春レク「航空科学博物館」～ワークショップしらさと～
- ・花見・イチゴ狩り～長生地活～

寄付会費をくださった方々

平成26年11月～平成27年3月

《寄付》

中野由美子・高春堂・すみれ会・陣内操子

《千葉拠点寄付》

椎名寿康・鈴木とし子・林重充・鈴木真美子・近藤龍雄・近藤昭子・久保田文造・寺田多美江・渡辺路子

《イキシア会員》

〈正会員〉

川名茂喜・阿部美智子・安藤成・陣内操子・小宮エイ子・合津みどり・石塚多美子

〈賛助会員〉

松田利子・林重充・近藤龍雄・鈴木隆夫・長尾佳子・伊藤進・日暮幹夫・内山潤哉

(順不同・敬称略)

収支決算書

自2014(平成26)年4月1日

至2015(平成27)年3月31日

イキシア会

単位:円

支 出		収 入	
科 目	金 額	科 目	金 額
寄 附 金	8,300,000	会 費	992,000
振 込 料	23,298	(163名)	
小 計	8,323,298	小 計	992,000
次期繰越	1,976,542	前期繰越	9,307,840
合 計	10,299,840	合 計	10,299,840

《編集後記》

新年度がスタートしてあっという間に1カ月が経ちまし新入職員のパワーを分けていき今年度も1年頑張ります。

今年もイキシアを通してみなさんにワーナーホームの情報をお伝えいたします。(M)